

シチズングループのCSR活動

CSRに対する基本的な考え方

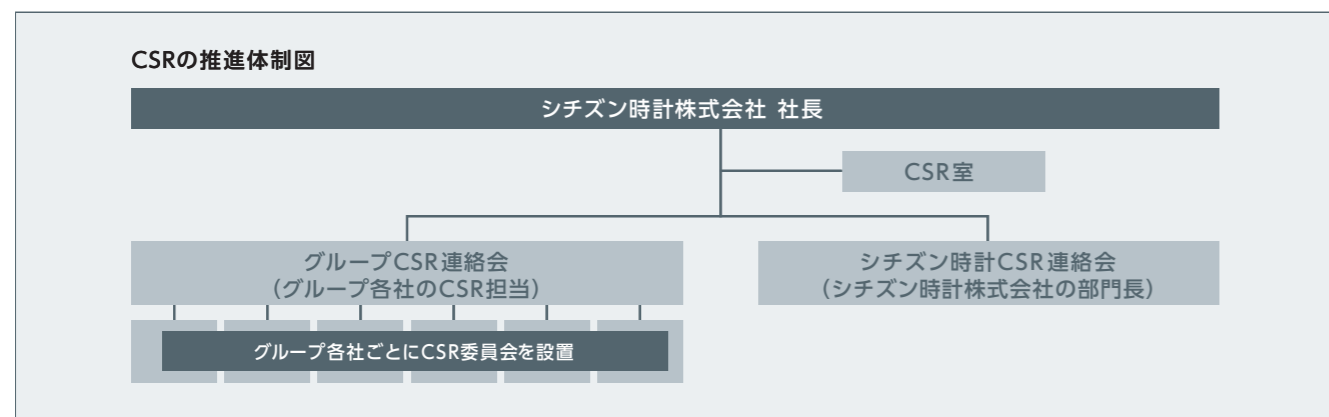
シチズングループは、「市民に愛され市民に貢献する」との企業理念に基づき、「シチズングループ行動憲章」を定めています。この「シチズングループ行動憲章」を従業員一人ひとりに浸透させ、実践することを通して、社会課題の解決に貢献することを「CSR活動」と捉えています。

「市民に愛され親しまれるものづくり」を通じて世界の人々の暮らしに広く貢献するという思いは、シチズングループの創業以来の原点です。そしてシチズングループは、良い製品を提供するだけでなく、すべての企業活動を通じて社会の要請に応え、必要とされ続ける企業であることを目指しています。

CSRの推進体制

シチズングループは、事業持株会社のシチズン時計を中心に、「シチズングループ行動憲章」の浸透展開を図り、従業員一人ひとりが、自らの原点を忘れず、社会のためにできることを日々積み重ねていけるよう、全員参加型のCSR活動を実践しています。シチズン時計の監査・CSR部CSR室(以下、CSR室)を中心とし、各グループ会社のCSR委員会やCSR

担当部門と連携し、情報共有を図っています。定期的にグループ各社のCSR担当部門が集まって開催するグループCSR連絡会では、グループ全体としての活動の方向性や施策について協議するほか、各社の取り組み状況について確認を行うなど、グループ内でのベストプラクティスの共有も行っています。



シチズングループのマテリアリティと「持続可能な開発目標」(SDGs)

2017年度、シチズングループは、国際社会の一員かつ、「真のグローバル企業」としての責任を果たし、持続的に成長していくにあたり、シチズングループが優先的に取り組むべきマテリアリティを選定しました。国連の「持続可能な開発目標」(SDGs: Sustainable Development Goals) や、国連グローバル・コンパクト、ISO26000、EICC (現RBA)、GRIスタンダード等のCSR/サステナビリティに関する原則・指針を参照するとともに、社会やステークホルダーにとって重要な社会課題を網羅的に把握し、また、シチズングループの企業理念や行動憲章、中期経営計画等の事業戦略と照らし合わせ、特に重要度の高い課題を特定し、マテリアリティとして整理しました。

シチズングループの従業員を中心に、次の100年に向けてシチズンのあるべき姿について「座談会リレー」(参加者122人、2018年4月時点)で対話を深めました。このことを通じて、長期的かつ積極的に社会課題の解決に取り組むべく、「社会貢献活動の促進」を7つ目のマテリアリティとして追加しました。今後は、取り組みをより実効性のあるものとするために、各マテリアリティに具体的な目標を設定していきます。また、各マテリアリティを、国連の「持続可能な開発目標」に紐づけることで、持続可能な社会の重要性を再確認するとともに、シチズングループが事業活動を通じて貢献できることを改めて明確にしています。

更に2018年度は、創業100周年記念企画として

■ コーポレート・ガバナンスの強化

シチズングループの企業価値の継続的な向上を目指し、グループ全体での効率的な業務執行、および監督体制の構築・経営の透明性・健全性の確保のため、組織や社内制度を整備します。



■ リスクマネジメントの徹底

シチズングループ横断的、あるいは個々の事業を取り巻くあらゆるリスクの予防と、緊急事態発生時に従業員や地域社会の安全に配慮し事業を継続していけるよう、リスクマネジメントを推進します。



■ コンプライアンスの徹底

シチズングループ行動憲章の浸透の徹底を基軸として、経営の根幹としてのコンプライアンスの徹底を、グループ全体で推進します。



■ 働きやすい職場環境づくり

多様性を認め合い、また互いの能力を高め合う企業風土を強化します。誰もが安心・安全に働ける職場づくりを実践します。



■ 責任ある調達への推進

グループ全体での調達活動の最適化を目指し、お取引先とともに、サプライチェーンにおける社会課題の解決を目指します。



■ 環境イノベーションの促進

シチズングループの製品やバリューチェーンの事業プロセスにおいて、環境負荷の低減に努めます。



■ 社会貢献活動の促進

シチズングループの従業員は、国内外の各地域における社会課題と向き合い、「学習・教育」「環境」「災害支援活動」の分野を中心に、社会貢献活動に取り組むことで、地域社会との共生を目指します。



ステークホルダーとマテリアリティ

2017年度のCSR活動のハイライト

シチズングループでは、企業理念である「市民に愛され市民に貢献する」を具現化した「シチズングループ行動憲章」の実践を、CSR活動と位置付けています。2016年度に「シチズングループ行動憲章」を改定し、2016年10月の日本語版と2017年1月の英語版の発行に続き、2017年4月には8カ国語の翻訳版を発行しました。

2017年度のCSR活動は、これら行動憲章の浸透・展開を重点課題としました(p.16『シチズングループ行動憲章』の浸透徹底)をご参照ください。また、シチズングループでは、行動憲章の各章に紐づけて「CSR活動目標」を設定し、その目標の達成に取り組んでいます。以下に、2017年度の取り組みの一部を報告しています。

グループ全体でのCSR活動の目標と取り組み状況

シチズングループでは、昨年のマテリアリティの設定を受け、グループ各社においてマテリアリティを踏まえ、「シチズングループ行動憲章」に紐づけた「CSR活動目標」を設定し、各職場において、責任を持ってその目標の達成に取り組んでいます。各目標

への取り組みは、自己評価を行うことでPDCAにつなげています。以下に、2017年度の取り組みからシチズングループのマテリアリティ(重要課題)に関連したものを抜粋しています。

□ 2017年度 CSR活動目標・実績と今後の課題 (抜粋)

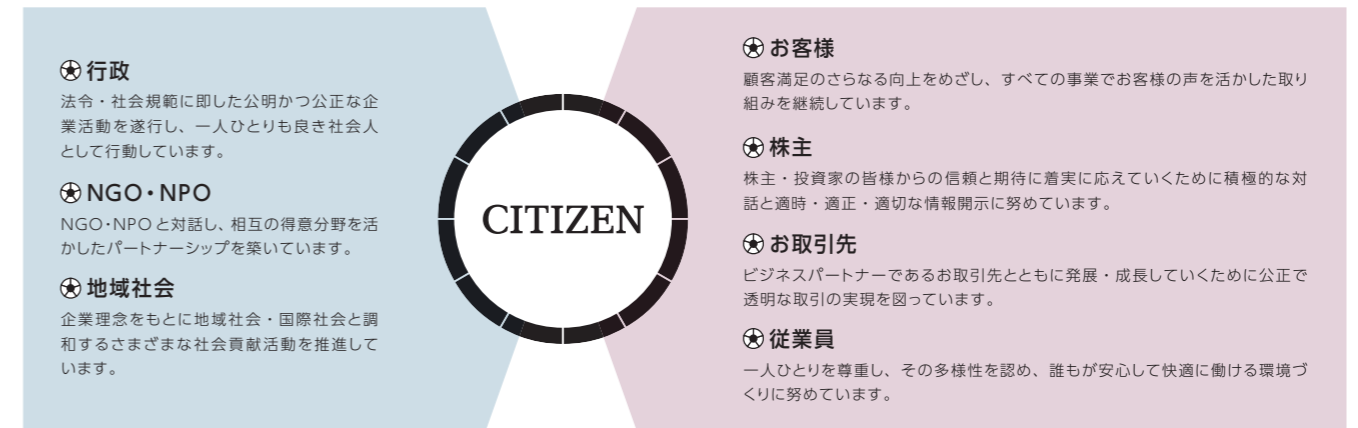
行動憲章 / マテリアリティ	CSR活動目標	自己評価	実績と今後の課題
【1条】 コーポレート・ガバナンスの強化 リスクマネジメントの徹底 コンプライアンスの徹底	① 翻訳版を用いた海外主要拠点への展開	A	① 海外拠点への浸透展開のため翻訳(中、独、仏、伊、西、葡、タイ、ベトナム)版を発行し、海外拠点41回、延べ4,126人に展開。 ② eラーニングの実施はシチズン時計のみ、グループ会社は次年度に実施する。
	② eラーニング教材を活用した研修の実施	C	
【2条】 コンプライアンスの徹底	品質、環境に配慮した製品・サービスを提供する	D	シチズン電子における、不適切行為・不適正行為を受け、グループ品質コンプライアンス委員会を設置しモニタリング等を通じてコンプライアンス強化を図る。
【3条】 責任ある調達推進	「シチズングループCSR調達ガイドライン」の展開	B	グループ統一のガイドラインを発行し、サプライヤーへの展開を開始。取り組みの遅れている会社もあるので、グループとして一体感のある取り組みを目指す。
【4条】 働きやすい職場環境づくり	人事制度の整備と有給休暇取得率の向上、および女性活躍推進	A	改善は着実に進んでおり、これからは課題解決能力を備えた人材の育成に力を入れることで、シチズングループの成長につなげていくことが課題。
【5条】 環境イノベーションの促進	環境配慮型製品・サービスの提供	A	長寿命化や、耐久性の観点から時計の長期使用性を追求している。今後も人と環境に配慮したもののづくりを通じ、開発に努めていく。
【8条】 社会貢献活動の促進	100周年事業として社会貢献活動派遣の検討と試行(国内6件、海外3件)	A	地域における社会課題と向き合う点で有効である。「社会貢献活動派遣制度」として毎年実施していく。

※ 自己評価の評価基準は、(A:目標通り、達成できた B:ほぼ達成できた C:まだ課題が残る D:実施することができなかった)の4段階です。

ステークホルダーとの関わり

シチズングループは、様々なステークホルダーに支えられながら企業活動を行っています。また、企業理念である「市民に愛され市民に貢献する」を実現するために、日々ステークホルダーとコミュニケー

ションを図っています。社会から信頼を得ながら、価値を提供し続けることができる企業を目指し、ステークホルダーの皆さまとの関わりを大切にしています。



ステークホルダー・エンゲージメント

シチズングループは、社会への提供価値を最大化するためには、様々なステークホルダーの要望・期待を経営に取り込み、的確に応えることが重要であると考え、ステークホルダーとのコミュニケーションを図ることで、企業理念の具現化を目指しています。

2017年度は、特に、創業100周年を機にグループ従業員が様々なテーマに関して話し合う「座談会リレー」を行う等、次の100年に向けてシチズングループが一体となって成長していくために、従業員との対話を深めました。

ステークホルダー	エンゲージメント方法 / 内容	実績 / 評価	対応 / 計画
お客様	シチズン時計お客様時計相談室に寄せられるご意見、ご要望への対応	お客様時計相談室へのご意見数 8,312 件	お客様の声を活かした商品、改善の検討、今後の課題、計画
	公式WEBサイト、賞品WEBサイトで会社情報 事業内容の発信 各種SNSで会社情報、事業内容の発信	Facebookフォロワー数約 1,530,000人 (シチズン時計)	お客様に役立つ情報の発信と公式 SNS でのコミュニケーション
株主	株主総会 / 投資家との意見交換 / 各種レポートを通じた情報開示 / 決算説明会の実施 / 投資家向けにWEBサイトを通じて情報発信	株主数 28,282 人 / 投資家との個別ミーティング 148 回	ESG に関する情報開示を通じた株主価値の向上
お取引先	CSR 調達ガイドラインに関する説明会実施	説明会は計画通り実施	CSR 調達監査の実施
	販売店への展示会での製品情報の提供	展示会用の情報発信ツールが好評を得て、販売店にて活用	相互発展のための情報共有と関係の構築
従業員	100 周年記念座談会の実施 / 従業員満足度調査の実施 / 上司との面談 / 労使間協議 / 社内イントラネット	座談会への参加従業員数 122 人 / 全 22 回 (2018 年 4 月現在)	従業員満足度の向上 / ワークライフバランスの制度拡充 / 安心して働ける職場環境の整備 / 最大限の能力を発揮できる環境の整備
NGO/NPO	社会貢献事業での連携 / NGO の活動報告会を開催	協働での社会貢献事業の実施回数 22 回	ダイアログの実施を検討 / 社会課題を学ぶ機会としてワークショップの実施を検討
地域社会 / 行政	地域貢献活動 (時計組立教室の実施、寄付やスポンサー活動を含む) / 地域のイベントへの参加 / 工場見学の受け入れ	美化活動への社員参加 94 回 / 工場見学の受け入れ 149 回 / 時計組立教室の開催 54 回 / 社会貢献の寄付金額 45.6 百万円	地域の方々を招待した事業所内イベントの開催 / 相互理解を図り、安定した地域社会形成への貢献 / 事業を通じた地域貢献活動の充実